

# 経営比較分析表（令和5年度決算）

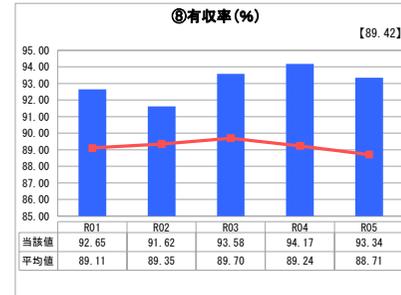
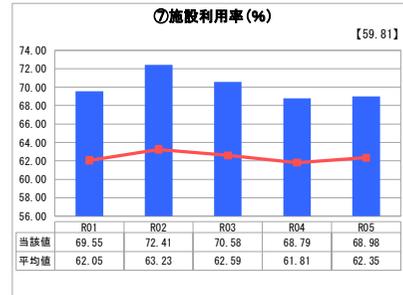
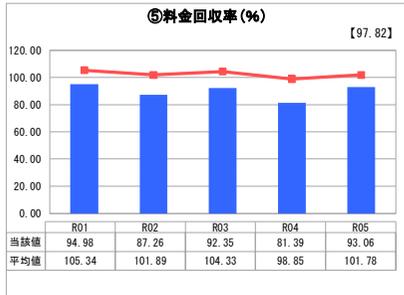
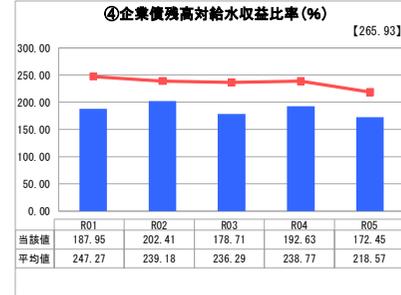
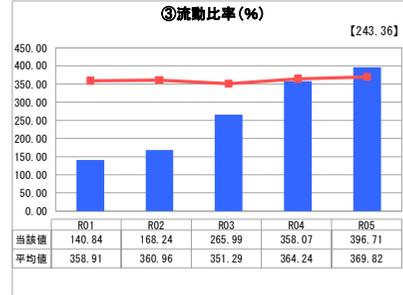
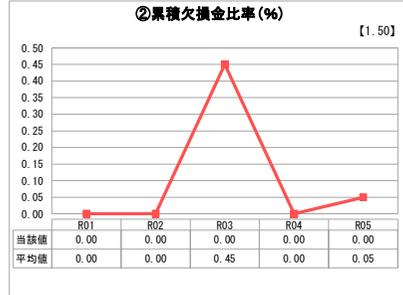
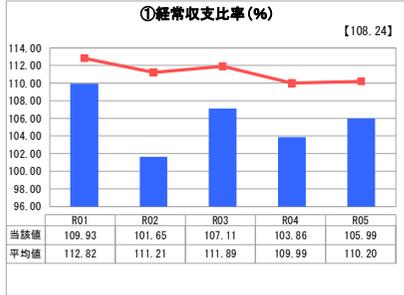
埼玉県 戸田市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A3	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金(円)	
-	80.18	100.00	1,749	

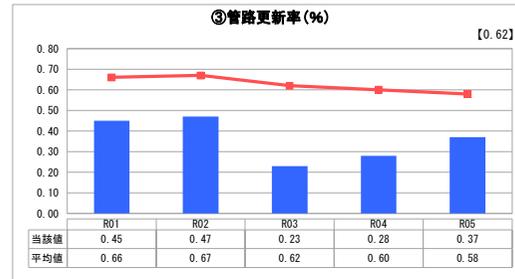
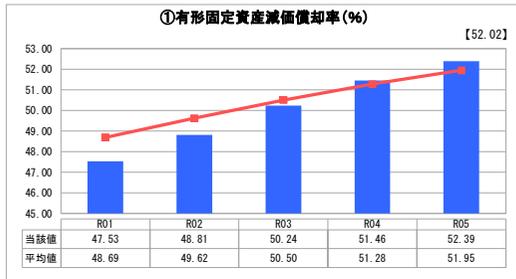
人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
142,163	18.19	7,815.45
現在給水人口(人)	給水区域面積(km <sup>2</sup> )	給水人口密度(人/km <sup>2</sup> )
141,988	18.19	7,805.83

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
【	令和5年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 2. 老朽化の状況



## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

- ① 経常収支比率  
比率が100%を超えているため単年度収支は黒字となっています。営業費用の減少により、前年度を上回りました。
- ② 累積欠損金比率  
欠損金は発生しておらず良好な状態にあります。
- ③ 流動比率  
継続して100%以上を維持しており、支払能力に問題はありません。引き続き健全な経営を維持していきます。
- ④ 企業債残高対給水収益比率  
平成19年度から平成20年度までの10年間にわたる企業債の借入抑制の結果、類似団体より低い値となっています。
- ⑤ 料金回収率  
比率が100%を下回っており、給水にかかる費用が料金収入で賄えないことを示しています。類似団体平均と比較しても低く、給水収益以外の分担金収入等に依存している状況が課題となっており、令和7年4月からの料金改定により改善される見込みです。
- ⑥ 給水原価  
本市は市域が狭く平坦な地形で、建物が密集しているため、設備をコンパクトかつ効率的に利用できることから、他団体と比較して給水原価が低い傾向です。
- ⑦ 施設利用率  
類似団体平均値よりも高い値であり、施設規模は適切であると考えられます。
- ⑧ 有収率  
類似団体平均値よりも高い数値を維持しています。今後も老朽管更新等を計画的に進めていきます。

### 2. 老朽化の状況について

- ① 有形固定資産減価償却率  
上昇傾向にあり、水道管渠や浄水場施設等の老朽化が進行しています。
- ② 管路経年率  
令和5年度水道管路更新計画策定業務にて整理した結果、法定耐用年数を超えた管路延長が増加したことにより、類似団体平均よりも高い比率となりました。  
なお、緊急時には適宜、管路修繕を実施しているため、法定耐用年数を超えたことで直ちに設備が使用不可能になることはありません。
- ③ 管路更新率  
令和3年度からの3年間は、僅かですが増加しています。  
この更新ペースを増加させるには、更新事業量増はもとより、それを支える財源の確保及び水道事業の経営に与える影響を踏まえた分析を行う必要性があります。  
今後、管路建設時の経過年数等を考慮し、計画的に管路更新を進めていきます。

### 全体総括

本市水道事業の経営状況は、経常収支比率が100%を上回り、健全経営を維持していますが、料金回収率が低く、給水に係る費用を料金収入で賄えていない状況です。  
今後、給水収益が減少傾向となることが予測される一方で、老朽化施設の更新や耐震化への投資など、多額の資金需要が見込まれます。  
健全経営を維持するため、更なる経費の削減、漏水対策の強化による有収率の向上、施設の統廃合などを含めた投資の効率化、更新財源を確保するための適正な料金水準の料金改定など、水道ビジョンや経営計画に基づき、長期展望に立った事業運営に取り組みます。

# 経営比較分析表（令和5年度決算）

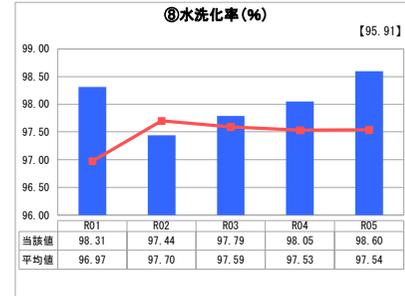
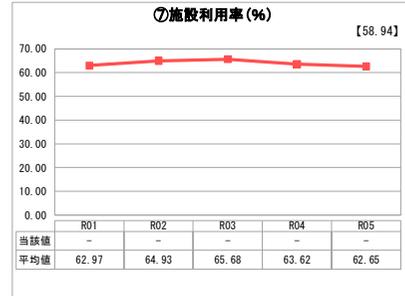
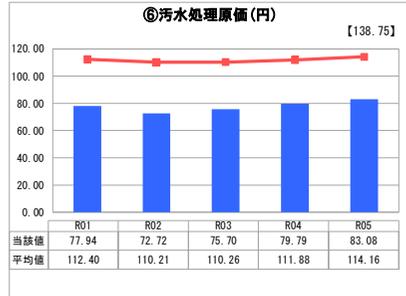
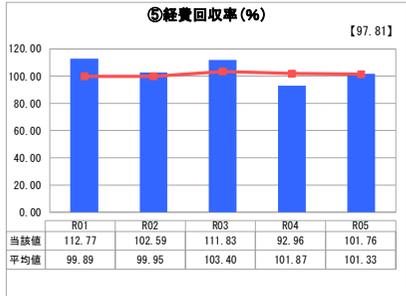
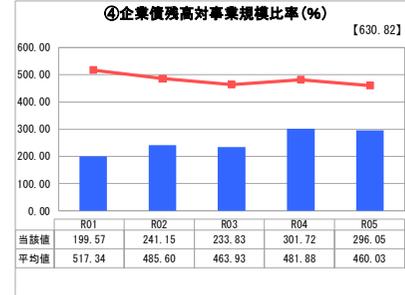
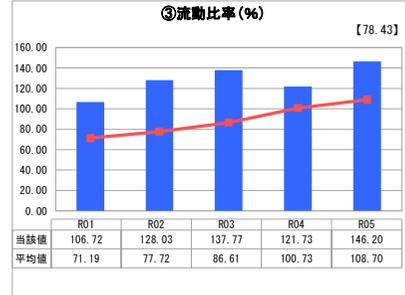
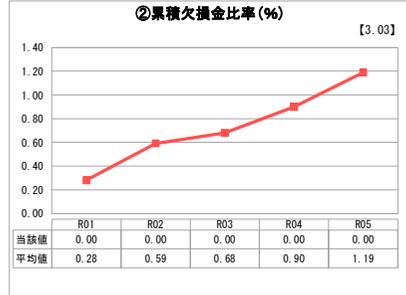
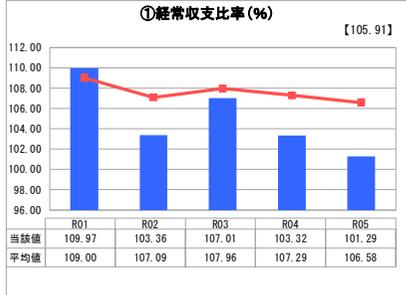
埼玉県 戸田市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	公共下水道	Aa	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20㎡当たり家庭料金(円)
-	51.40	95.68	99.30	1,023

人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
142,163	18.19	7,815.45
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km <sup>2</sup> )	処理区域内人口密度(人/km <sup>2</sup> )
135,860	12.64	10,748.42

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 令和5年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

① 経常収支比率  
比率が100%を超えているため単年度収支は黒字となっていますが、令和5年度は営業収益の減少により例年と比較して値が減少しました。

② 累積欠損金比率  
欠損金は発生しておらず良好な状態にあります。

③ 流動比率  
継続して100%以上を維持しており、支払能力に問題はありませぬ。引き続き健全な経営を維持してまいります。

④ 企業債務高対事業規模比率  
類似団体より低い水準にありますが、今後も合理的な投資による適正な債務残高の維持や、使用料収入の確保に努める必要があります。

⑤ 経費回収率  
下水道使用料改定を実施した平成29年度以降、基本料金減免を実施した令和4年度を除き、経費回収率は100%を超え、使用料収入で汚水処理費を賄うことができています。

⑥ 汚水処理原価  
本市は市域が狭く平坦な地形で、建物が密集しているため、設備をコンパクトかつ効率的に利用できるところから、他団体と比較して汚水処理原価が低い傾向です。

⑦ 施設利用率  
本市は下水処理場を保有していないため、本指標は該当しません。

⑧ 水洗化率  
令和3年度より再び上昇傾向にありますが、下水道を整備する際の接続啓発により注力し、今後も100%を目指し継続促進に取り組みます。

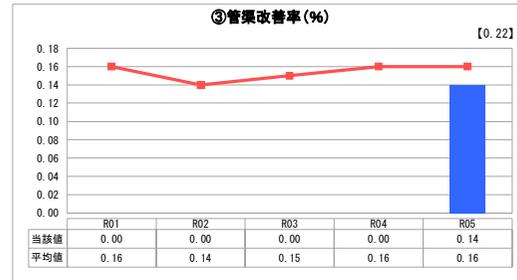
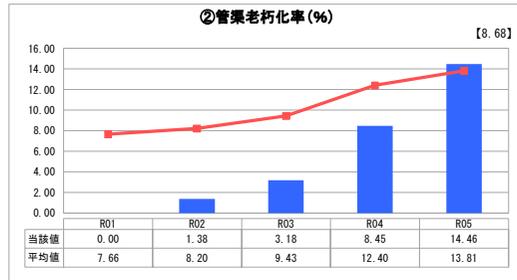
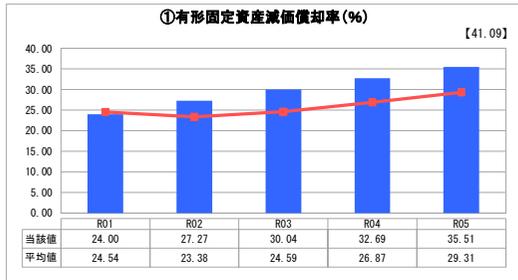
### 2. 老朽化の状況について

① 有形固定資産減価償却率  
年々上昇しており、下水道管渠やポンプ場施設等の老朽化が進行しており、類似団体より高い水準にあります。老朽化した管渠や施設の計画的に実施する必要があります。

② 管渠老朽化率  
令和2年度から老朽化率は上昇傾向にあることから、計画的に更新を進めていく必要があります。

③ 管渠改善率  
老朽管の状態を把握し、効率的かつ効果的に更新・改善を進めます。

## 2. 老朽化の状況



## 全体総括

基本料金減免を実施した令和4年度を除き、経費回収率は100%を超え、健全経営を維持しています。

令和5年度は管渠改善率が計上され、管渠の老朽化にあわせて更新事業を実施しました。今後は、未整備地区の整備と更新事業が重なることにより必要となる多額の財源を確保しつつ、健全経営を維持することができるよう、現在策定中の新上下水道事業ビジョンや経営戦略、ストックマネジメント計画に基づき、計画的な事業運営を継続してまいります。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみ類似団体平均値及び全国平均を算出しています。